

# 小中一貫校準備会議だより

第3号 (2014年6月 生駒市教育委員会)

## <今後の設計スケジュールについて>

準備会議の意見を受けて、生駒北中学校に小中一貫校を建設します。現時点での予定は次のようになっています。

- |          |  |
|----------|--|
| 平成26年度～  | 設計を開始します。                              |
| 平成27年度後半 | 生駒北中学校校舎を解体する工事を行います。(中学生は小学校校舎で勉強します) |
| 平成28年度   | 生駒北小中一貫校の新築工事を行います。                    |
| 平成29年4月  | 生駒北小中一貫校が開校し、春休みに小中学校とも新校舎へ移る予定です。     |



## <「こんな条件を入れて設計してほしい！」～会議での意見>

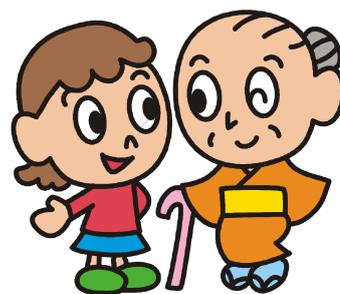
- ・(生駒北中学校) 敷地南側に校舎を作ると伸びる余地がない。小中一貫校のキーポイントの1つはクラブ活動である。運動場を広くとって子どもたちに良い環境でクラブ活動をさせたい。
- ・将来の発展を期待し南側に伸びていく余地を残す夢を描けるよう、敷地北側に(校舎を)建設する方がいい。



- ・プロポーザルの理念に環境を入れるべきだ。ここは環境保全を目的とした市街化調整区域で新しい住宅が建てられない。だから環境との関係をきちんととらえられる教育が必要だ。

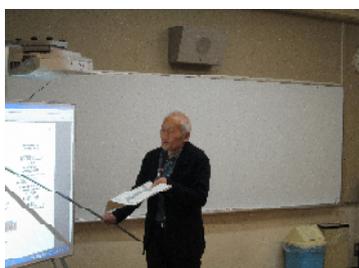
- ・現実対応と未来志向を重ねながらデザインしなければならない。使いやすさを目指すデザインは、現実対応(現在行われている流れで考える、指導者の使いやすさから考える)が優先されやすくなり、建物は新しいが従来と何ら変わらない施設になる。一方、新しいものばかりを追う(未来志向)デザインを優先すると、使い勝手が悪く、うまく活かせない施設になる。そのため、こんな子どもに育てたいという保護者や地域や学校の願いと合致する施設、この学校でよかったと子どもたちが思う施設にしないといけない。欲しい施設や設備はいっぱいあるだろうが、どこかで折り合いをつけなければならない。

- ・地域の方が交流できる場所が欲しい。たくさんの方が集い、世代交流ができるようにしたい。
- ・(工事期間中は) 中学生が1年半小学校で過ごす。ストレスを感じることがないように、配慮してほしい。



---

通学路の安全については県と市と地元との話し合いで進展がありました。それについて参加者が詳しく説明しています。



「県や市は国道163号線以北の河川改修計画を立てると回答しましたが、交通量の減少により道路網整備は難しいということでした。しかし、20年後を想定して通学、通勤、通院などの悩みを【県・市・地元のまちづくり会議】等のワークショップで出し合い、予算化につなげることになっています。」

生駒市北部スポーツタウン構想については、学研北生駒駅から現地までの路線バスの充実と自転車道や歩道の確保、対面通行が可能な車道の確保について、生駒市の調査を受けて県が検討することになりました。

高山スーパースクールゾーン構想については、通学路の安全を確保するよう要望しています。県道の西側の歩道は狭くて凹凸が多く、整備されていません。出店橋から芝にかけて整備し、小中一貫校の校門とバス停をつなぐ歩道も確保するよう要望しています。

宮方バイパスについては、バイパス曲線部分の安全性、バイパスと県道の車の走行方向、宮方橋や交差する市道の安全性を議論する必要があることを確認しました。それから、国道163号線バイパスの高山大橋交差点の暫定供用についての確認や、学研北生駒周辺のまちづくりについての話し合いも要望しています。」



生駒市ホームページには議事録等を掲載しております。  
小中一貫教育のページは次のとおりです。

<http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/15200/03/01.html>

